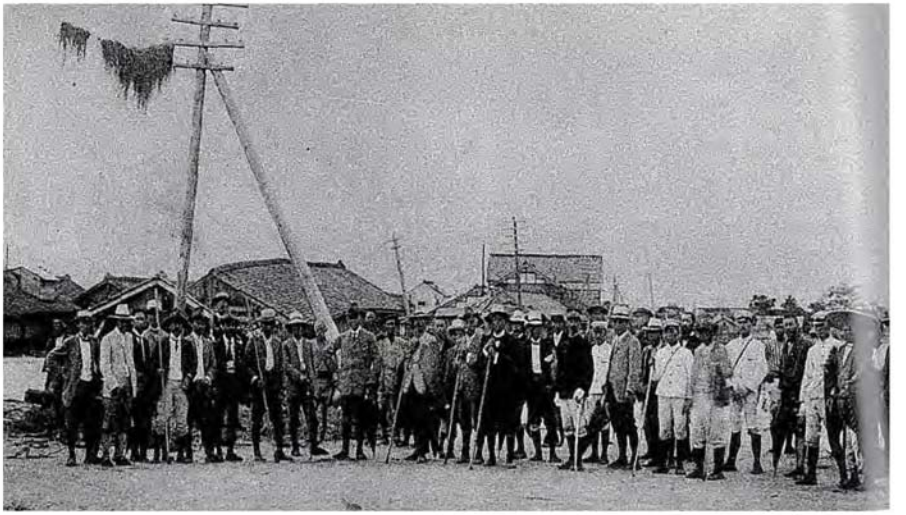
災　害

明治、大正、昭和の100年間、甲府市は忘れたころになると災害に見舞われた。その多くは、大雨や台風によるものだったが、その都度、被害を克服してきた。昭和50年代以降は、河川改修、防災事業などもあり、洪水などによる大きな災害は発生していない。

水びたしになった甲運地区

明治40年の洪水

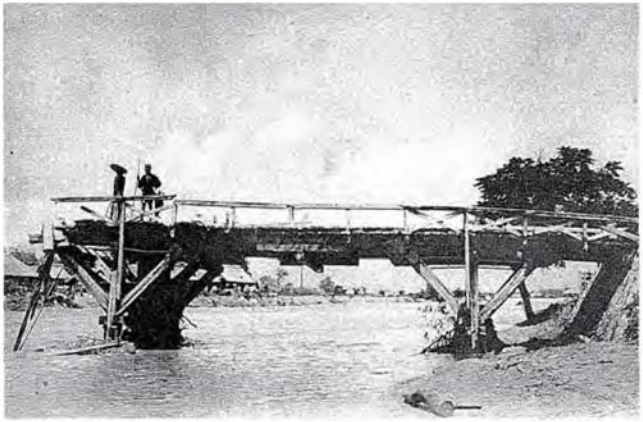
この年、県内には8月21日から5日間、強い雨が降り続き、県内全域で河川が氾濫した。甲府市では石和町と西山梨郡甲運村を隔てる笛吹川が決壊、市内東部は水びたしになった。全県で232人の死者を出した大洪水だったが、そのなかで甲府は他の地域に比べて比較的被害は少なかった。



水が引いたあと、被災地を視察する人たち

明治43年の洪水

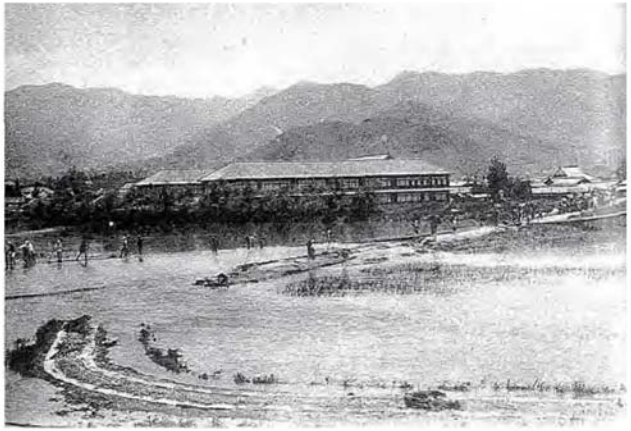
8月10日、相川の飯田橋付近が決壊、市内南西部に濁流が流れ出した。



濁流に破壊された千秋橋

壊れて流された荒川橋

相川の決壊箇所に近い穴切小学校付近

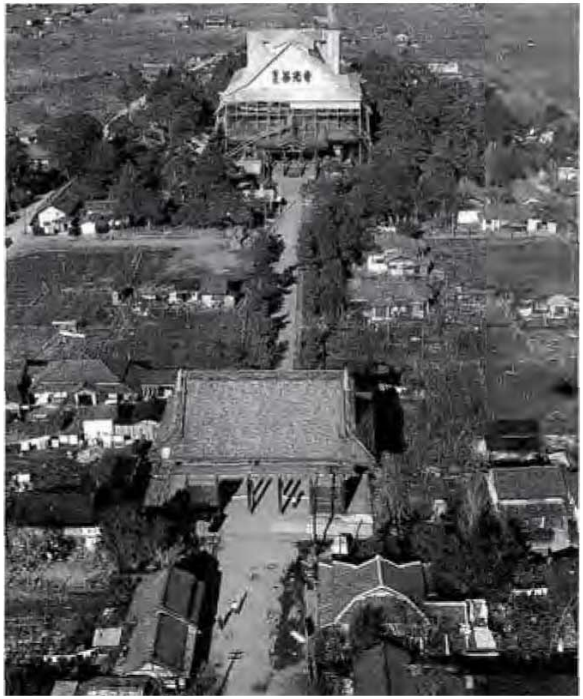


伊勢小学校付近の被害（いずれも明治43年の水害）

テント張りが見える甲府銀座の様子

関東大震災

大正12年9月1日、首都・東京に大被害を与えた関東大震災は、甲府市民にも大きな恐怖を与えた。甲府で震災を体験した人たちは、今もその激しい揺れを思い出すという。
大きな被害はなかったものの、翌日の2日になっても、余震が続き、多くの人たちは、屋外にテントを張って暮らした。



ちょうど1年前に撮影した善光寺の航空写真で、台風に直撃された時も改修工事が行われていた。

完全に崩れ落ちた山門

強風で傾いた善光寺

昭和34年の台風７号

8月14日早朝、駿河湾から富士川沿いに北上した台風7号は、甲府盆地西側を通過。直撃された山梨県は全県に大きな被害を受けた。

台風通過コースの東側にあたった甲府市は、秒速40㍍を超える強い風に襲われ、樹木がなぎ倒され、住宅の屋根が飛ばされた。被害は、甲府市内だけで、死者5人、家屋の全・半壊2,111件、床上・床下浸水1,715件に達した。

台風7号は、従来の雨台風と異なり、強烈な暴風を伴った風台風で、朝の甲府盆地を荒れ狂った。すさまじい風の音は、今も市民の脳裏に焼き付いている。郊外の里垣、甲運地区などでは、ブドウの棚がすべてなぎ倒され、市内の中学、高校生までが棚おこしの復旧作業に動員された。

強風で壊れた甲府銀座のアーケード

吹き飛ばされた舞鶴城公園東側の民家の様子

浸水の被害に遭った下一条町（現・城東三丁目）一帯

相生小学校に避難した付近の住民

電柱などが道路をふさぎ、通行不能になった甲府ー静岡線

避難先の相生小学校で自炊する市民

無料健康診断
甲府市保険課

昭和41年の集中豪雨

7月22日、甲府市北部の山岳地帯を中心に、約2時間半の間に、400ミリを超える集中豪雨があった。

この豪雨で朝日小学校南で相川左岸が決壊、横沢町(現・朝日三丁目)に濁流があふれた。出水口付近の民家は泥に埋まり、死傷者58人、全壊家屋25棟、床上浸水1,486棟という大きな被害になった。復旧作業は、警察、自衛隊、消防団のほか、市内自治会から一般市民も参加して行われたが、20日以上もかかった。

流出した汚泥や家具などがあふれた横沢通り

集中豪雨のあった相川上流の積翠寺地区でも家屋が倒壊した

出水口付近で、住宅の屋根までとどおいた汚泥を運び出す市民たち